

平成 24 年度 泉苑 事業報告

I 概要

1) (利用者動向) 高齢虚弱化の進む中、環境整備や3・11の混乱後の耐震改修工事も無事終了し、ご利用者の過ごし方の検討に加え介護技術の向上に取り組んだ。100歳以上の利用者が8名となり、同時に入退院も増加し、稼働率も低下したため収入が悪化し、運営上も苦勞した。

2) (職員・育成) 全体の介護職員数は確保されているが、夜勤業務の可能な職員数の不足により、24時間の勤務体制づくりに苦慮した。超過勤務時間も増加し、職員の育成時間も充分確保できない状態であった。この様な職員状態の中にも、特養とセンターの協力体制を再検討し、チーム力の向上を図りながらの業務体制作り結び付けられた。

3) (平成24年度事業計画についての報告) 大規模改修・耐震化工事については8月末日に事故もなく無事完了した。空調設備について居室ごとの調整が可能になり虚弱な利用者への細やかな対応が可能になった。防災訓練は地震対策を重点に確実な内容の訓練が実施した。

4) (平成24年度重点の動き)

業務管理体制の確実なチェックと確認作業に取り組める事で進められる様になった。

職員体制の強化と育成については、引き続き次年度も課題として取り組む。

府中市を通じて他のエリアのケースを含め6件の入所があり、引き続き福祉的観点での役割を果たした。

II 事業別動向

区分	成 果	課 題
特養	入院、長期入院による退所、新規入所後骨折や疾病悪化により入院するケース等による稼働率の低下。重度化に伴う介護時の事故増加。個別活動の取り組み。	安定した稼働。 介護技術向上。 感染症予防。
短期入所	インフルエンザによる事業休止。緊急的ケース、困難ケースの速やかな受け入れ。	感染症予防。新規利用者受け入れ。
デイサービス	認知症対応型通所介護事業の確立を図ったが利用率低迷のために休止した。	一般通所における認知症ケアの実施
地域包括支援センター	支援困難ケースが増加し、内部外部問わずチームとして取り組むべきケア会議・ケース検討の充実化を図った。	高齢者地域支援連絡会の定着化と充実化
居宅介護支援センター	法令遵守を意識した年度であり、平成24年12月より特定事業所加算を算定。給付管理件数が伸び悩む。	マネジメント技術の向上 給付管理件数を増やす
事務	各部署との緊密な連絡、連携を図り、さらに効率的な事業遂行のための部門化をめざした第1歩を踏み出した。	収支管理の徹底、財政状況の適切な報告情報提供
管理	事業ごとの管理体制を強化し日々確実な運営体制に沿った人員配置が行われているかの確認作業が行われるようになり職員の勤務に対する意識向上が図られた。	適正な人員体制の検討と見直し。

III リスクマネジメント

1) 苦情・第三者評価

苦情については大きな問題に発展したケースは無かった。第三者評価は高い評価を得たが、業務の効率化等によるさらなるサービスの質及び職員のモチベーションの維持向上等を求められた。

2) 感染症等予防・蔓延防止の取組

昨年度に引き続き、1月にインフルエンザ感染者(利用者22名、職員7名)が発生し、短期入所事業も14日間新たな利用者の受け入れを休止した。次年度の重要課題としてさらに検討する。

3) 緊急対応・事故等

大きな事故はなかったが、ベッドから転落、転倒(骨折等)7件の事故が発生した。

4) 防災訓練状況

大規模改修・耐震化工事も無事終了し、生活環境、耐震性の向上が図ることができた。

5) 勤務管理

9月11日に都の指導検査があり、各事業別に日々の人員体制をチェックし整える体制づくりを行った。